【実施区域・面積】

岡山県、12.041ha

【生態系タイプ】

里山林、二次草原・草地、河川・湖沼、
低層湿原・湿地

【実施区域の状況】

元々は畑であった土地を珪藻土採掘鉱区として立地したため、表土の黒ボク土や珪藻土が除去され、貧栄養環境となっている。周辺よりも低地であることから、地下水の湧出地付近は湿地となり、中心部は池が形成されている。水生昆虫は多数観察できるが、河川流入がないため魚類の生息は確認されていないなど、ゆっくりと独特な自然再生を遂げている。また、採掘事業の名残で一部地層断面が露出しており、珪藻土の良好な縞状ラミナが残存している。

【目標】

現在形成されている環境を維持しながら、希少種の生息・生育地として機能させる。動植物や珪藻土層の観察会を行うなど、自然環境や地質、採掘産業に触れる教育の場として活用する。

【主な活動内容】

多様性の高いススキ草地・貧栄養湿地維持のため、ススキの過密生育域の刈り取り作業や火入れを行うと共に、樹林・竹林にて定期的に伐採等を行い、過密林化を防止する。水位上昇による貧栄養湿地拡大に併せて、水際線の植物の移植や植栽を実施し、モニタリングする。

【モニタリング計画】

年1～2回、簡易的な生物モニタリング①～③を行う(①オオヨシキリ営巣確認、カヤネズミ巣探し、②水鳥・草地性鳥類、③水辺、草地、貧栄養湿地のトンボ・鳥類、両生類・昆虫類)。
5年に1回、生物モニタリングを実施する(実施項目：両生類・爬虫類・哺乳類、鳥類、昆虫類、底生動物、植物・植生)。

【実施体制】

昭和化学工業㈱は、活動計画を作成し、事業主として実施区域を管理している。蒜山自然再生協議会はコーディネーターとして各団体の取りまとめや活動への助言・補助を行っている。㈱地域環境計画は活動計画の骨子を作成し、生物モニタリング計画を作成および実施している。㈱オオバは土木的な視点での地形上の安全性や雨水排水対策などの検証を行っている。



【計画期間】

2025年12月～2030年11月